



平成19年11月12日

各位

会 社 名 株式会社アパマンショップホールディングス  
(コード番号8889 ヘラクレス市場)  
代 表 者 代表取締役社長 大村 浩次  
本社所在地 東京都中央区京橋一丁目1番5号  
問 合 せ 先 経営企画本部経営企画部  
ゼネラルマネジャー 野口 昌弘  
T E L 03-3231-8023

当社子会社の特別損失の計上等に関するお知らせ

当社の連結子会社である株式会社 AS-SZKi(ジャスダック上場、証券コード:1995)が特別損失の計上並びに平成19年5月18日に公表しました平成20年3月期中間(連結・単独)業績予想及び通期(連結・単独)業績予想の修正を別添資料のとおり開示しましたのでお知らせいたします。

尚、上記による当社の個別業績ならびに連結業績に及ぼす影響につきましては、現時点で当社は決算監査中にあり、今後、業績に及ぼす影響が判明次第、必要に応じてお知らせいたします。

以上

添付資料

株式会社 AS-SZKi の開示資料

「特別損失の計上並びに平成20年3月期中間(連結・単独)業績予想及び通期(連結・単独)業績予想の修正に関するお知らせ」

各 位

会 社 名 株 式 会 社 A S - S Z K i  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 千 葉 慎 二  
 (JASDAQ コード 1995)  
 問 い 合 わ せ 先 専 務 取 締 役 木 下 義 治  
 電 話 番 号 0 5 5 - 9 7 1 - 3 0 4 0

特別損失の計上並びに平成 20 年 3 月期中間(連結・単独)業績予想及び  
 通期(連結・単独)業績予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 20 年 3 月期中間決算において下記のとおり減損損失による特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせいたしますとともに、平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の中間期及び通期の業績予想について、平成 19 年 5 月 18 日付当社「平成 19 年 3 月期 決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

当中間期において、連結子会社及び当社の固定資産(土地)について、市場価格を勘案し、減損損失 36 百万円を計上する見込みであります。

連結子会社の役員退職引当金について、役員退職慰労金は従来、支出時の費用として処理しておりましたが、改正後の「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」(監査・保証実務委員会報告第 42 号)を適用し、27 百万円計上する見込みであります。

連結子会社において、役員退職金支給に伴う役員退職慰労金 17 百万円計上する見込みであります。

合併に伴い、合併関連費用 11 百万円を計上する見込みであります。

2. 平成 20 年 3 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	4,630	610	580	820
今 回 予 想 ( B )	8,173	1,595	1,493	1,501
増 減 額 ( B - A )	3,543	985	913	681
増 減 率	76.5%	161.5%	157.4%	83.0%

(2) 修正理由

売上高につきましては、主として連結子会社の不動産ファンドが所有する物件を売却したこと等により売上高が大幅に増加し、前回予想を 3,543 百万円上回る 8,173 百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、不動産ファンド等の売却益による成功報酬及び分配金の増加により、売上総利益が大幅に増加したことに加え、連結子会社の不動産ファンドの売上高増加に伴う売上総利益が増加し、前回予想を 985 百万円上回る 1,595 百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、連結子会社(不動産ファンド)の営業外費用の増加がありましたが、上記のとおり営業利益の大幅な増加により前回予想を 913 百万円上回る 1,493 百万円となる見込みであります。

中間純利益につきましては、連結子会社において過年度役員退職引当金の繰入等の特別損失を 90 百万円計上したこと、さらには当社の税効果会計に基づく繰延税金資産の回収可能性の見直し等があったものの上記のとおり経常利益の大幅な増加により、前回予想を 681 百万円上回る 1,501 百万円となる見込みであります。

(3) 通期(平成 19 年4月1日～平成 20 年3月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	10,600	940	870	1,100
今 回 予 想 ( B )	21,000	2,100	1,750	1,580
増 減 額 ( B - A )	10,400	1,160	880	480
増 減 率	98.1%	123.4%	101.1%	43.6%

(4) 修正理由

売上高につきましては、中間期の売上高の増加に加え、下半期において連結子会社である不動産ファンドの所有する物件売却案件等の見込みにより、前回予想を 10,400 百万円上回る 21,000 百万円となる見込みであります。

営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、上記のとおり売上高の増加に伴い売上総利益が増加しその結果、前回予想営業利益、経常利益、当期純利益はそれぞれ前回予想を 1,160 百万円、880 百万円、480 百万円それぞれ上回り 2,100 百万円、1,750 百万円、1,580 百万円となる見込みであります。

(5) ご参考:前期の実績(平成 18 年4月1日～平成 19 年3月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
中 間 期(4/1～9/30)	3,098	77	75	81
通 期(4/1～3/31)	6,299	256	262	317

3. 平成 20 年3月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 19 年4月1日～平成 19 年9月 30 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	3,850	600	580	830
今 回 予 想 ( B )	3,909	1,446	1,452	1,516
増 減 額 ( B - A )	59	846	872	686
増 減 率	1.5%	141.1%	150.4%	82.7%

(2) 修正理由

営業利益につきましては、主としてアセットマネジメント事業の売上総利益が大幅に増加し、前回予想を 846 百万円上回る 1,446 百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益の大幅な増加に加え、金融費用等の営業外費用の減少等もあり、前回予想を 872 百万円上回る 1,452 百万円となる見込みであります。

中間純利益につきましては、合併関連費用等の特別損失 13 百万円の計上に加え、繰延税金資産の回収可能性の見直しもありましたが、上記のとおり経常利益が大幅に増加したことにより、前回予想を 686 百万円上回る 1,516 百万円となる見込みであります。

(3) 通期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	8,800	900	850	1,100
今 回 予 想 ( B )	7,700	1,700	1,680	1,600
増 減 額 ( B - A )	1,100	800	830	500
増 減 率	12.5%	88.9%	97.6%	45.5%

(4) 修正理由

売上高につきましては、主として建設事業において、建築基準法の改正により建築確認審査の遅延等の影響もあり、工事着工時期が遅れることもあり、当期の完成に至らない建築工事が増える見込みのため、前回予想を 1,100 百万円下回り 7,700 百万円を見込んでおります。

営業利益につきましては、建設事業売上高の減少による売上総利益が減少はするものの、上記のとおりアセットマネジメント事業における売上総利益の増加により前回予想を 800 百万円上回る 1,700 百万円を見込んでおります。

経常利益につきましては、上記のとおり営業利益の増加により前回予想を 830 百万円上回る 1,680 百万円を見込んでおります。

当期純利益につきましては、連結子会社(蘇州鈴木温泉旅游開発有限公司)の清算にともなう特別利益 70 百万円を見込む一方で、法人税等調整額等の税負担額を計上することとなることもあり、前回予想を 500 百万円上回る 1,600 百万円となる見込みであります。

(5) ご参考: 前期の実績(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
中 間 期(4/1～9/30)	2,387	78	83	92
通 期(4/1～3/31)	4,799	239	249	360

上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報をもとにした仮定を前提としており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上